

調査資料

健康で豊かな家庭作りと村づくりを目的に!!

黒部農協生活資導員 宮崎 巳美子

I 黒部農協管内のあらましと現状

黒部地区は富山県の北東部にあり、県東部の最大の河川である黒部川左岸に位置する平地農村で、黒部川扇状地の中央部を占めている。

農協12支所

組合員戸数 5,483戸 (正 4,160戸
准 1,323戸)

1戸平均耕作面積 1ha

複合経営に野菜、果物、畜産

近くには吉田工業、日本鋳業、富山工業等の企業があり、ほとんどは兼業農家である。

農業が主婦の手にわたり、母ちゃん農業の声を聞くや、その農業をあずかる主婦さえ、パート、出かせぎ等、農外就労につくようになった。朝晩の農業、昼はつとめ、もちろん炊事、洗濯、家事いっさいはかかすことのできない主婦の仕事である。

このような中で農村婦人の過重労働からくる健康障害が多くなっている現状である。黒部農協では、農業労働の特に重い地区を重点に選び、健診と生活状況調査をした。

その結果をまとめ、今後の健康で豊かな家庭作りと村づくりに対処していきたい。

II ねらい

農村婦人の健康に対する意識づけと婦人に多い貧血追放のため、農村婦人の健康診断と生活状況調査を実施し、健康に対する活動の活発化、又、心にうるおいと豊かさのある生活向上をはかる。

III 対象

黒部農協健康診断重点地区、荻生、若栗、石田の3地区の農村婦人353名。

地区名	平均年齢	家族数	平均耕作面積	農外就業者率	対象人数
荻生	50.37才	4.9人	112.2a	30.5%	146人
若栗	50.26	4.7	117.2	39.5	91
石田	53.97	4.7	78.2	14.9	116

IV 実施内容

1. 生活状況調査

調査日 昭和51年7月22日(若栗)

23日(荻生)、26日(石田)

調査項目 健康意識、食事の実態、その他

調査方法 個別にききとり調査をした。

2. 検査項目

貧血検査、検尿、血圧、内科的診断、

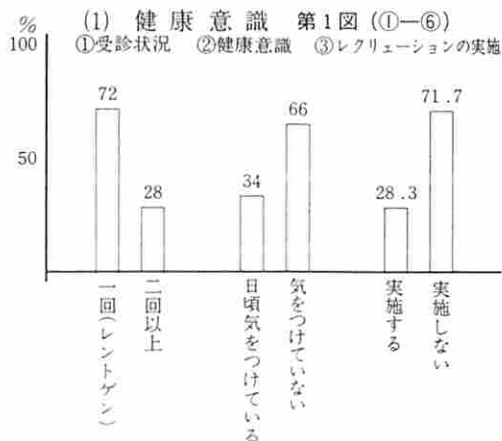
胸部レントゲン、身長、体重、問診

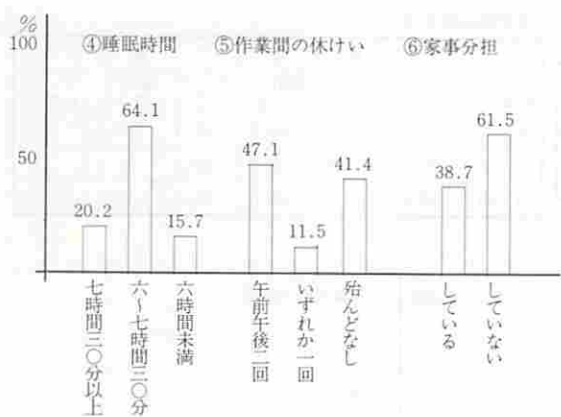
検診日 昭和50年7月21、22、23、24日

昭和51年7月22、23、26日

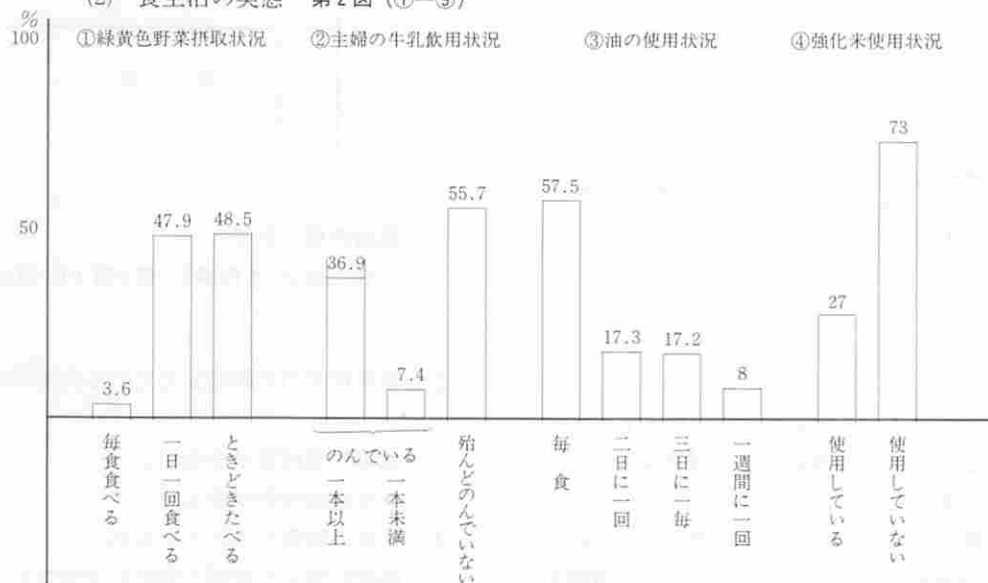
V 実施結果

1. 生活状況調査の結果

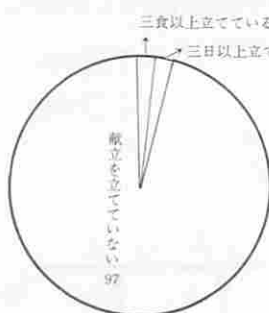




(2) 食生活の実態 第2図 (①—⑨)



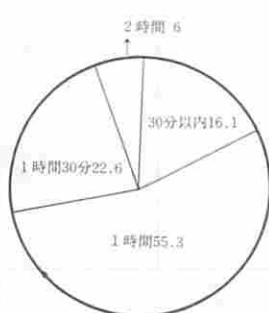
⑤献立活用状況



⑥買い物状況

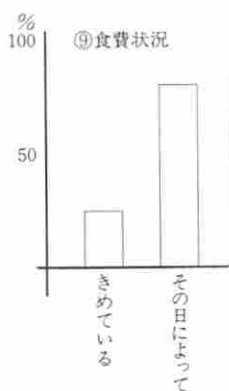


⑦夕食準備時間状況



⑧調理担当者状況



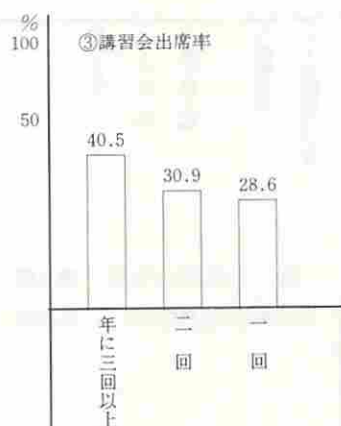
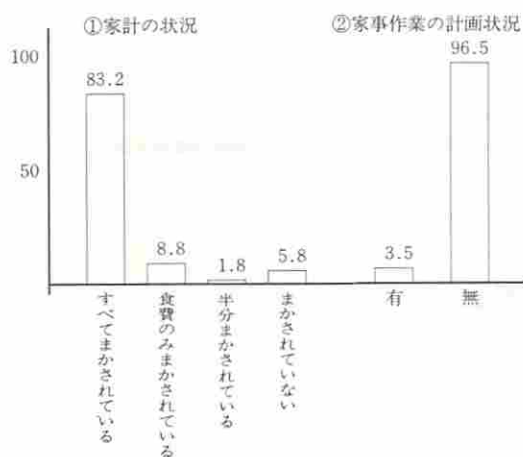


地区	1人当たり1日の食費(現金のみ)
荻生	337円
若栗	223円
石田	273円

家計簿記帳状況

地区	記帳		全体で		費用別に	
	している	していない	集計している	していない	集計している	していない
荻生	20.0	80.0	41.2	29.4	29.4	—
若栗	32.9	67.1	32.0	36.0	32.0	—
石田	27.0	73.0	20.0	35.0	40.0	5.0

(3) その他 第3図(①—③)



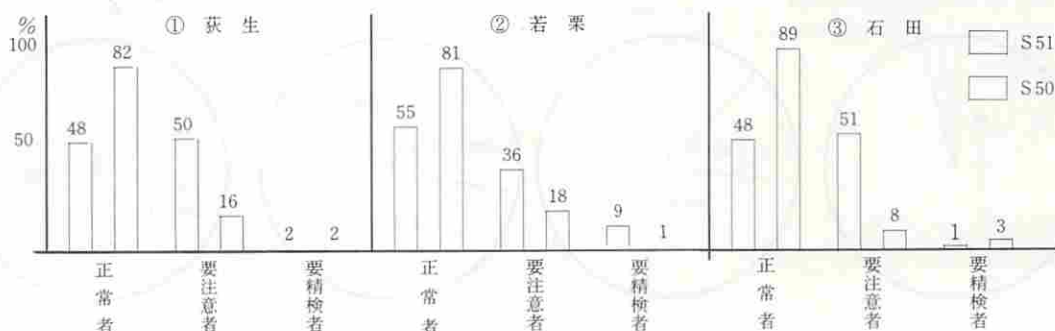
2. 健康診断の結果

(1) 貧血検査(血色素) 第4図(①—③)

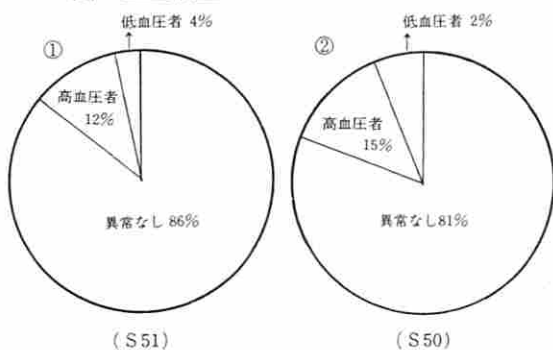
(4) 考察

- ① 家計のすべてをまかされている人が83.3%と高いが家計簿記帳者は26.6%と少ない。
- ② 計画的な食生活がされていない。
 - 献立を立てている人は殆んどいない。
 - 計画的な買い物がされていない。食費を決めている人も13%と少ない。
 - 食物の必要量を摂取していない。(緑黄色、野菜、油、牛乳、ポリライス)

- ③ 家事作業の計画を立てている人が殆んどない。
 - 家事作業時間が少ない。
 - 食事準備時間が少ない。
- ④ 休養の確保がされていない。
 - 睡眠時間と作業間の休けいが少ない。
 - 家事分担がされていない。
- ⑤ 家族全員のレクリエーションをする家庭が少なく、家庭の日の実施はほとんどない。



(2) 血圧検査 第5図(①-②)



(3) 考 察

- ① 昭和50年と比較して、血液異常者は減少し、健康に対する意識も強まった。しかしその反面、16%の異常者があり、この人達は働きざかりの人に多くみられた。(昭和50年の貧血者は個人で緑黄色野菜をうえ、レバーや牛乳を食べてとくに気をつけていた)
- ② 血圧異常者も多くみられた。
- ③ 農夫症、とくに肩こり、腰痛、めまい、手足のしびれなどをうったえる人が多くみられた。

VI 今後の取りくみ方

1. 検診を受けた人達の健康に対する意識と自覚が高まり、1人1人の健康に対する努力がみられる。これを黒部農協全体にすすめるように働きかける。
2. 食事の計画性と不足食品の摂取をすすめる。
 - (1) 油、強化米は共同購入してもっと使っ

てもらう。

- (2) 牛乳はスキムミルクや乳製品など上手に調理し確保できるもうにする。
 - (3) 緑黄色野菜を毎日毎食とれるよう家庭菜園にて人参、ほうれん草、しゅんぎく、ニラ、青じそ、ピーマン、かぼちゃなどを作って食べるようにすすめる。
 - (4) 家族全員で食べるたのしい食卓づくりをすすめる。
3. 農村婦人の過重労働がさげばれている中で、家事をおこたりがちになっているが、家事を大切にし、家庭を大切にするようにすすめる。
 4. 家事分担し、家族全員で楽しくすごす時間をもつように、家庭の日、家族の話し合いの場をもうけるようにすすめる。

以上のようなことより、主婦はその時、その時のいきあたりでなく、もっと暮らしに生活目標とうるおいをもって農村らしい仲間意識をもった健康生活をすすめていきたい。